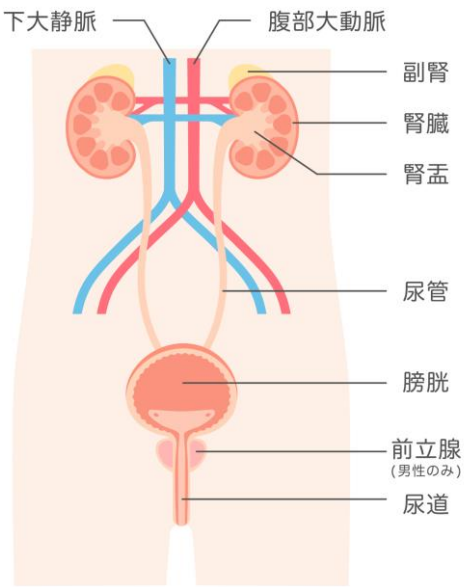
慢性腎臓病(CKD)について

検査室だより　2024.9

今回のテーマは、テレビなどで最近よく耳にする慢性腎臓病(以下 CKD)です。慢性に経過する腎臓病を指し、前回のテーマ骨粗鬆症と同様、国内の患者数は1000 万人以上と多く、あらたな国民病ともいわれています。

そもそも腎臓とはどのような臓器でしょうか。
そらまめのような形で握りこぶしくらいの大きさがあり、腰のあたりに左右一つずつあります。血液をろ過して老廃物などを尿として体外に排出する、というのはよく知られた腎臓の働きの 1 つですが、それ以外にも、様々なホルモンを分泌して血圧の調整や血液の生成にかかわり、骨の発育などにも重要な役割を果たしています。腎臓のこういった働きによって、身体を正常な状態に保つことができています。



CKD は、腎臓の機能低下が続く状態のことをいい、初期の段階ではほとんど自覚症状がありません。むくみ、倦怠感、貧血など、CKD が進行して現れる症状を自覚するころには、病態がかなり進行している場合があります。では初期には気づきにくい CKD を早く見つけるためにはどうしたらいいのでしょうか。一般的な健康診断でも CKD 発見のてがかりになることがあります。

尿検査

・・・たんぱく尿や血尿の有無をみます

血液検査

・・・血清クレアチニン値から腎機能の指標となる eGFR が分かります

次回も CKD についてお話します。

お気軽に医師・看護師までご相談ください。

医療法人 良秀会
泉北藤井病院